

高山市の消防

しょうぼうしょけんがくしりょう
(消防署見学資料)



| | |
|-------|----------|
| 見学年月日 | 令和 年 月 日 |
| 学 年 | 年 組 |
| 名 前 | |

高山市消防本部 高山消防署

消防のあゆみ

人間が火を使うようになって火事が起こるようになりました。

消防が発達したのは江戸時代からで、火事から江戸城を守る「大名火消し」と、江戸の町を守る「町火消し」ができました。

明治時代に入って「消防組」となり消防体制のもとができました。現在のような消防は昭和時代になり、全国の市町村に消防団や消防署ができてからです。

高山市の消防は

昭和14年

警防団ができました。

昭和22年

警防団にかわり、高山市消防団ができました。

4分団506人

昭和24年

高山市消防署ができました。職員17人

昭和38年

高山市消防署で救急の仕事もはじめました。

昭和47年

飛騨消防組合ができました。(高山市・古川町・

国府町) 高山市は高山消防署が担当になりました。

平成11年

飛騨消防組合に大野郡8町村、吉城郡2村が新

たに加入しました。

へいせい
平成16年

よしきぐん ちょうそん がっぺい ひ だし
吉城郡の4町村が合併し飛騨市ができました。

ふるかわ みやがわ かわい ひ だしょうぼう
これにより、古川町、宮川村、河合村が飛騨消防

くみあい だったい がっぺい よしきぐん
組合から脱退しました。合併しなかった吉城郡の

こくふ かみたから たんとう
国府町、上宝村は高山消防署の担当になりました。
た。

へいせい
平成17年

しちょうそんがっぺい しん たんじょう ひ だしょうぼう
市町村合併により新高山市が誕生し、飛騨消防

くみあい しょうぼうほんぶ めいしょう か
組合から高山市消防本部に名称が変わりました。

た。

へいせい
平成28年

5月1日現在で職員数152名（白川村含む）

現在の高山市消防本部



たかやましょうぼうしょ ⇒ 高山消防署
しないちゅうしんぶ
高山市内中心部

こくふぶんしょ ⇒ 国府分署
国府町

かみたからぶんしょ ⇒ 上宝分署
おくひだおんせんごう
奥飛騨温泉郷

上宝町

おおのぶんしょ ⇒ 大野分署
くぐの いちのみや
久々野町・一之宮町

あさひ たかね
朝日町・高根町



にゅうかわしゅつちようじょ ⇒ 丹生川出張所
丹生川町

きよみしゅつちようじょ ⇒ 清見出張所
清見町

しょうかわしゅつちようじょ ⇒ 荘川出張所
荘川町

しらかわしゅつちようじょ ⇒ 白川出張所
じゆたくじむ
白川村（受託事務）

消防署しくの仕組み

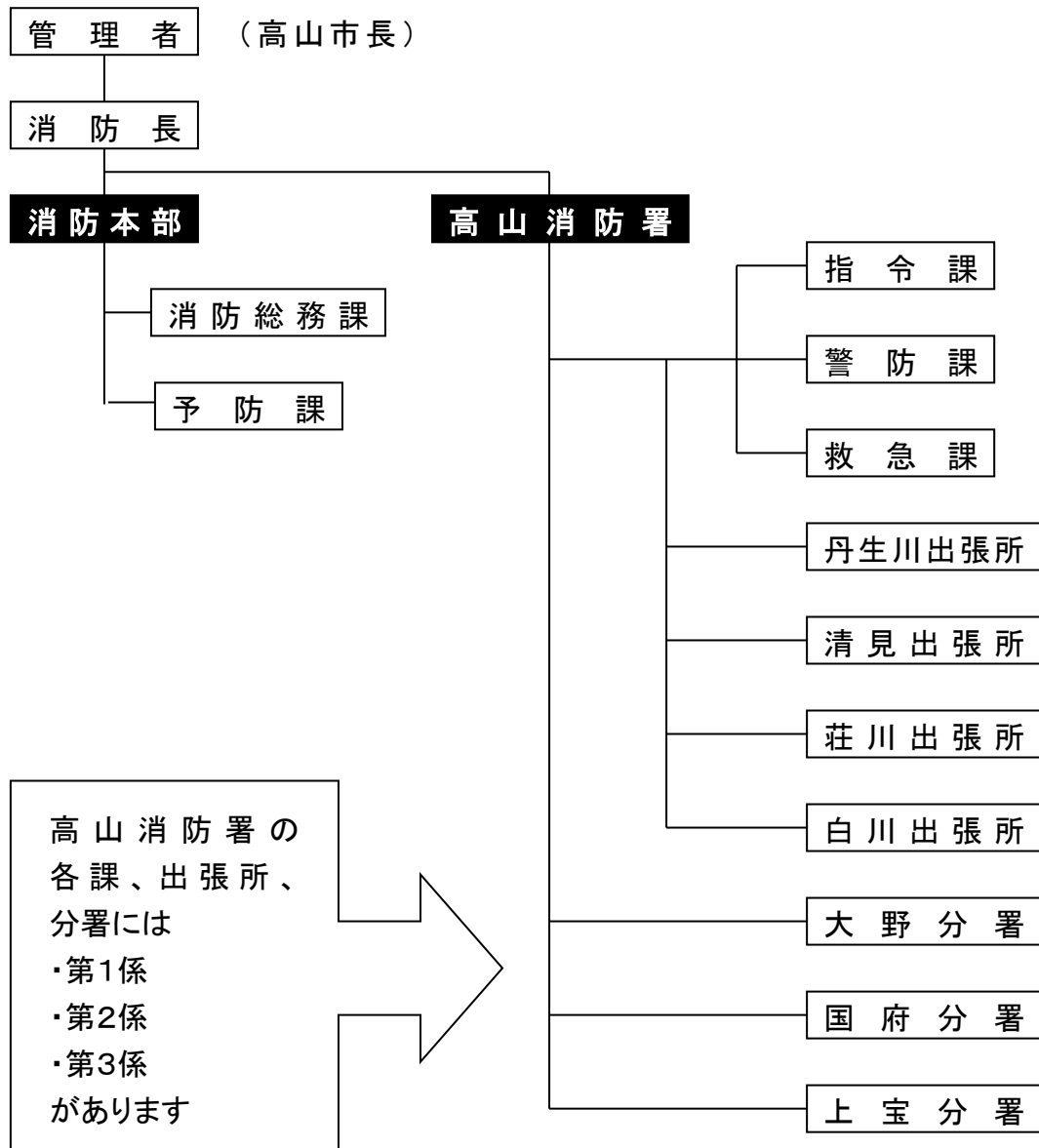
消防署は、専門せんもんの職員しょくいんがいつも働はたらいているところです。

消防署の職員しょくいんは、火事よぼうの予防けいかい、警戒しょうかおよび消火きゅうきゅうや救急きゅうじょ、救助など

の災害さいがいに備えそな24時間体制じかんたいせいで働はたらいています。



高山市消防本部 そしきず 組織図



消防団の仕組み

消防団は自分たちの町を災害から守ろうという気持ちをもった民間の人々で編成されています。ふだんは自分の仕事をしていますが、火事などの災害が起こると現場にかけつけ、消防署と同じ活動をします。そのため消防署と同じようにいろいろな訓練を行っています。また、平成9年からは女性の消防団員も加わり防火訪問や応急手当普及等に活躍しています。

高山市消防団本部 組織図

消防団長

- 支団長 ⇒ 高山支団 1～10分団
- 支団長 ⇒ 丹生川支団 1～5分団
- 支団長 ⇒ 清見支団 1～4分団
- 支団長 ⇒ 莊川支団 1～3分団
- 支団長 ⇒ 一之宮支団 1～3分団
- 支団長 ⇒ 久々野支団 1～3分団
- 支団長 ⇒ 朝日支団 1～3分団
- 支団長 ⇒ 高根支団 1～2分団
- 支団長 ⇒ 国府支団 1～3分団
- 支団長 ⇒ 上宝支団 1～3分団

消防の仕事

消防署では、火事が起これば消防車で出動して消火活動を行い、けが人や急病人が出れば応急手当を行い、救急車で病院へ運びます。これらが消防署のおもな仕事ですが、これ以外にも次のような仕事をしています。

◎火事から人の命や財産を守るためには

イ 火事を消す訓練や研究をする。

ロ 消火栓や防火水槽を点検する。

ハ 道路や家のならびなどを調べる。

ニ 消防車や消火活動に使う器具をいつでも使えるようにしておく。



◎火事が起きないようにするには

イ 建物を建てる時、構造を制限する。(燃えにくいもの)

ロ 火事の原因や損害を調べる。

ハ 火災予防の呼びかけをする。



◎火事をできるだけ早く消すには

- イ ^{がっこう} 学校、^{びょういん} ホテル、^{たてもの} 病院など大きな建物やガソリンスタンドなどの^{しょうかせつび} 消火設備や^{かさいほうちせつび} 火災報知設備の^と 取り^{あつか} 扱いを^{しどう} 指導する。
- ロ ^{じょせいぼうか} 女性防火クラブや^{ちょうないかい} 町内会での^{ぼうかきょうしつ} 防火教室、^{じしゅぼうさいそしき} 自主防災組織の^{いくせい} 育成や^{しょうかくんれん} 消火訓練の^{しどう} 指導をする。



◎ ^{さいがい} 災害での^{ひがい} 被害を^{すく} 少なくするためには

- イ ^{きけん} 危険な^{ばしょ} 場所から、^{あんぜん} 人を^{ばしょ} 安全な^{ひなん} 場所へ避難させる。
- ロ ^{そうごうてき} 総合的な^{ぼうさいくんれん} 防災訓練をする。



◎ ^{きゅうびょうにん} けが人や^{たす} 急病人を助けるためには

- イ ^{おうきゅうてあて} 応急手当の^{くんれん} 訓練をする。
- ロ ^{しみん} 市民に^{おうきゅうてあて} 応急手当の^{しどう} 指導をする。



高山市消防本部のおもな車両

| | | |
|--|---|--|
|  <p>水そう付ポンプ車(9台)</p> |  <p>ポンプ車(2台)</p> |  <p>はしご車(1台)</p> |
| <p>この消防車は、1500ℓの水を積んでいます。火事の際は一番先に現場へ行って、積んである水を使いすぐに消火かつどうを行います。</p> | <p>ポンプ車は火事の際に、消火栓や防火水そうから水を吸って、水そう付ポンプ車に水を送ってやるのが大事な仕事です。</p> | <p>ビルなどの高い建物で火災が起きたときに、はしごを伸ばして放水したり、逃げおくれた人を助けたりします。はしごの長さは30mです。</p> |
|  <p>指令車(4台)</p> |  <p>しきざいはんそう車(2台)</p> |  <p>救助工作車(1台)</p> |
| <p>火事などの災害現場で、現場本部として消防活動の指示をしたり、通信指令室と無線で連絡をとったりするのが主な仕事です。</p> | <p>災害現場に必要な道具などを、たくさん運ぶことができます。ボートもこの車にのせてダムや川まで運びます。</p> | <p>たくさんの救助用資機材が積んであり、火事や事故現場などで、だいかつやくするレスキュー車です。</p> |
|  <p>火災原因調査車(1台)</p> |  <p>こうきかく救急車(10台)</p> |  <p>警防搬送車(4台)</p> |
| <p>火災の原因調査などに使う車です。</p> | <p>救急救命士が乗って、病人やけが人に高度な救命しよちを行うことができます。救急器材が、たくさん積んであります。</p> | <p>火災などの災害現場で、必要な資機材や人材の搬送など多目的に使用します。</p> |

高山市消防本部のおもな車両



火災原因調査車(1台)



予防調査車(1台)

火災よぼう運動などのこままををしたり、大きな建物やガソリンスタンドの消火設備などの検査や、点検をするときにも使う車です。

予防査察などに使う車です。

消防・救助用の資機材 しきざい

| | | |
|--|---|--|
| <p style="text-align: center;">管そう</p>  <p>いろいろな管そうがあります。状況に応じて使い分けて放水します。</p> | <p style="text-align: center;">ホース</p>  <p>色でホースの太さを区別しています。ホースの巻きかたにもいろいろな方法があります。</p> | <p style="text-align: center;">空気呼吸器</p>  <p>煙の中や、有毒ガスが充満している現場に進入するときに、背中に背負って使用します。</p> |
| <p style="text-align: center;">エンジンカッター</p>  <p>金属やコンクリートを切断するための道具です。このほかに木材を切断するチェンソーもあります。</p> | <p style="text-align: center;">油圧式救助器具</p>  <p>油圧の力で、持ち上げたり・広げたり・切断したりする道具です。</p> | <p style="text-align: center;">マット式空気ジャッキ</p>  <p>空気力で重いものを持ち上げたり広げたりするジャッキです。</p> |
| <p style="text-align: center;">車両ウインチ</p>  <p>車両など重いものを引っ張る時に使う機材です。最大5トンまで引くことができます。</p> | <p style="text-align: center;">照明そうち</p>  <p>夜に消防隊が活動しやすいように、救助工作車に大きな照明を備えています。</p> | <p style="text-align: center;">救命さくはっしゃじゅう</p>  <p>空気力でロープのついたゴム弾を飛ばし、離れたところまでロープを張るための道具です。</p> |

救急隊が使う^{しきざい}資器材

| | | |
|--|---|--|
| <p style="text-align: center;">ストレッチャー</p>  <p>病気や、けが人をのせて運ぶためのたんかです。高さの調整もできます。</p> | <p style="text-align: center;">かんじやかんしそうち</p>  <p>病気や、けが人の身体の状態を観察することができるそうちです。</p> | <p style="text-align: center;">きゅうびよう用バック</p>  <p>応急しよちをするための道具がたくさん入っています。</p> |
| <p style="text-align: center;">バッグバルブマスク</p>  <p>自分で呼吸ができない人や、呼吸が止まってしまった人に人工呼吸をする道具です。</p> | <p style="text-align: center;">さんそきゆうにゆうき</p>  <p>おもに呼吸が苦しい人にさんそを与えてあげるためのさんそボンベとマスクです。</p> | <p style="text-align: center;">がいしろう用バック</p>  <p>おもに、けが人の応急しよちをするためのガーゼや包帯などが入っています。</p> |
| <p style="text-align: center;">じよさいどうき</p>  <p>心臓が異常な動きをしているときに、電氣的なしげきを与えて、正常な動きに戻してあげるための器具です。</p> | <p style="text-align: center;">じどうしんぞうマッサージき</p>  <p>じどうできょうこつをあつぱくする機械です。</p> | <p style="text-align: center;">特定行為セット</p>  <p>さんそを十分に体の中におくためのチューブや点てき、やくざいをとうよするセットです。</p> |

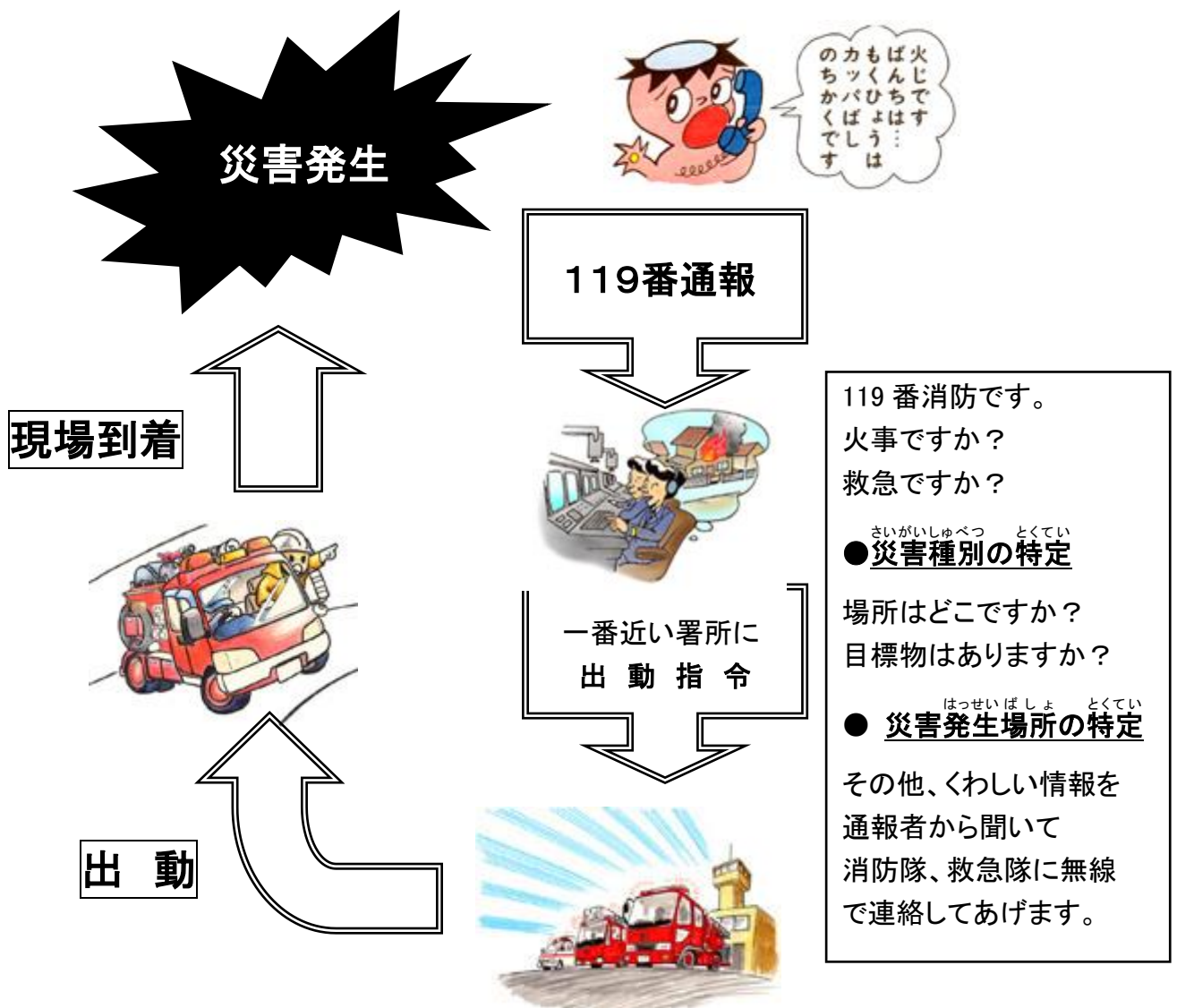
つうしんしれいしつ
通信指令室の仕事



通信指令室では

- ① 119番通報の受付
- ② 火災、救急をはじめとした災害の出動指令
- ③ 消防無線、サイレンを使用した消防団への出動指令
- ④ 一人暮らしの老人宅からのきんきゅう通報システムの受付
- ⑤ 飛驒地域の救急病院案内などの仕事をしています。

119番通報から出動まで



みんなで火事をなくしましょう

・春は火遊びでたくさんのお火事が起きています。マッチやライターで遊ばないように、みんなで気をつけましょう。

・夏は花火遊びに注意しましょう。大人の人についてもらい後始末もしっかりしましょう。

・秋は子供どうしでたき火をしないようにしましょう。



・冬は火事の多い季節です。ストーブのまわりなどで遊ばないようにしましょう。

◎火事を見つけたとき

イ 『火事だー』と大声で知らせる。

ロ 火を消すのは大人にまかせる。

ハ 火事場には近づかないようにする。



◎逃げるとき

イ 口や鼻をタオルでおおう。

ロ 低い姿勢で逃げる。

ハ 逃げたら絶対にもどらない。



◎地震のとき

イ あわてて外に飛び出さないで机の下などに身をよせる。

ロ ブロック塀、がけ、川べりなどには近づかない。

ハ 先生や、大人の言うことをよく聞くこと。